

一カトリカ大学派遣プログラム

募集要項

1. 概要

山形大学と大学間交流協定を締結し、サテライトオフィスを設置しているカトリカ大学に派遣する。学生は、現地事情や文化を直接学びつつ、カトリカ大学生と交流を図り、「山形大学日本語教室」にて日本語や日本文化などを紹介する。

2. 目的

山形大学生を海外の大学に派遣し、海外生活を体験させることにより、学生のグローバル意識の向上を図り、山形大学各キャンパスのグローバル化推進に資することを目的とする。

本プログラムでは、派遣先にて異文化を体感しつつ、積極的な交流を図ることで、グローバル化時代に必要な次の4つのスキルを身につけることができる。

- (1) 自国の文化・価値観及び自分を知る
- (2) 相手や異文化への理解を深める
- (3) 外国に飛び出そうというチャレンジ精神を養う
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション能力を高める

3. 日程

事前学習会	出発日	帰国日
8月8日(金)	9月16日(火)	9月26日(金)

4. 募集人数

10名

5. 応募条件

以下の全ての条件にあてはまること。

- * 山形大学に在籍する学部1年次以上の学部学生及び大学院生
- * 小白川キャンパスにて実施される事前学習会を含めた全ての日程に参加できること
- * 派遣決定後、プレゼンテーションやレポート等の事前課題を提出できること
- * 滞在中、健康面を含めた必要な自己管理が出来ること
- * 事後レポートの提出及び報告会等へ参加し、本プログラムの情報発信に協力できること
- * 前年度の成績評価係数（JASSOが定める下記の算出方法にて）が2.30以上であること

【成績評価係数の算出方法】

下記の評価ポイントに換算し、計算式に当てはめて算出（小数点第3位を四捨五入）

S：評価ポイント3 A：評価ポイント3 B：評価ポイント2

C：評価ポイント1 F：評価ポイント0

【計算式】

(評価ポイント3の単位数×3) + (評価ポイント2の単位数×2) +

(評価ポイント1の単位数×1) + (評価ポイント0の単位数×0) ÷ 総登録単位

6. 申請方法

以下の2点を所属学部の学務担当へ提出する。

学部長は、派遣希望学生のグローバル意欲等を勘案の上、国際交流担当理事に推薦する。

【提出書類】

- ①別紙様式1「カトリカ大学派遣プログラム申請書」
- ②成績確認票(写し)

7. 申請締切

平成26年7月11日(金) 17:00 国際交流室必着

※各学部の締切は上記より早い場合があるので、注意すること

8. 選考基準・結果通知

次の基準に基づき、書類審査及び面接にて国際交流担当教員が選考し、所属部局長あてに通知する。

- ①グローバル社会をより深く理解する意欲のある者
- ②諸外国の大学生及び職員等と積極的に交流を図る意欲のある者
- ③山形大学グローバル化のために取り組む意欲のある者

(1) 第1次選考 書類審査

選考結果は、平成26年7月18日(金)までにメールにより申請者本人へ通知する。

(2) 第2次選考 面接考査

面接日は平成26年7月22日(火)～7月25日(金)のうちいずれかとし、第1次選考の結果通知の際に、面接日を調整する。

選考結果は、平成26年7月31日(木)までにメールにより申請者本人へ通知する。

※国際交流室からの連絡は、申請書に記入された連絡先へ行うものとする。

9. 参加費用

(1) 派遣学生には、渡航補助金として山形大学が10万円を支給する。

(2) プログラムに係る費用は、派遣学生が負担するものとし、おおよその費用は以下のとおり。

航空券：約22万円

宿泊費：約2万円

食費：約1万5千円

現地交通費：約2千円

※成田までの往復、交遊費、お土産代を除く。

10. 事前・事後学習

派遣学生は、事前及び事後学習会へ参加し、課題の提出を行う。

また、プログラム終了後「カトリカ大学派遣プログラム学習報告書」を提出する。

事前学習会及びオリエンテーション

日時：平成26年7月28日(月) 16:30~18:30

会場：小白川キャンパス事務局4階 第2会議室

事後学習会

日時・会場：未定 (決定し次第、各自へ連絡する。)

11. 渡航準備について

次の点については、派遣決定後各自で手配するものとする。

(1) パスポート・ビザ

アメリカを経由しペルーに入国するため、パスポートの残存有効期間がペルー滞在日数プラス6ヶ月以上あること。

ペルー入国のビザは必要ないが、アメリカを経由するため、電子渡航認証システム(E S T A)により、渡航認証を取得する必要がある。

(2) 海外旅行保険

慣れない環境や長距離の移動により、渡航先では体調を崩すことが少なくない。また、ペルーではスリやひったくり、置き引きなどの被害が頻発している。その際の治療費や損害の負担及び損害賠償等の経済的負担は、全て派遣学生が負う。海外での治療費は、数百万にのぼることも多く、帰国を余儀なくされた場合の搬送費は数千万円になる場合もあるので、必ず出発日から帰国日までをカバーする海外旅行保険に加入すること。クレジットカード付帯の海外旅行損害保険では、補償が十分でない場合が多いので、別途、保険に加入し、その写しを家族等へも渡しておくこと。

(3) 感性症等に対する予防措置

① A型肝炎

生水、氷、生肉、生野菜などから感染する可能性が高い。リマは海岸沿いの都市であり、セビツェに代表するとおり魚介を使った料理が豊富なため、ワクチンの接種を推奨する。

A型肝炎のワクチンは、2~4週間の間隔で2回接種することとなるので、早めに計画をたてること。

② 黄熱病

2014年6月現在、予防接種は義務付けられてはいないが、感染する危険のある国とされている。

③ その他

厚生労働省検疫所HP等を確認し、最新の情報を得るとともに、各自で必要と思われる予防策を講じること。

FORTH 厚生労働省検疫所

<http://www.forth.go.jp>

仙台医療センター 海外旅行外来

<http://www.snh.go.jp/Subject/25/>

12. 問合せ先

教育・学生支援部国際交流課国際交流室

TEL: 023-628-4018

EMAIL: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

プログラムスケジュール概要

日付	内容	
9月16日(火)	成田空港集合	
9月17日(水)	リマ・ホルヘチャベス空港着 オリエンテーション	
9月18日(木)	各大学・学部紹介 プレゼンテーション カトリカ大学 キャンパスツアー	 
9月19日(金)	日本語教室 リマ/日本事情講義	 
9月20日(土)	ナスカ市内見学	 
9月21日(日)	フリータイム	 
9月22日(月)	日本語教室 日秘文化会館訪問	 
9月23日(火)	日本語教室 感想発表会	 
9月24日(水)	帰国準備	
9月25日(木)	リマ・ホルヘチャベス空港発	
9月26日(金)	成田空港着	

※上記スケジュールは、現地の状況等により変更となる場合がある。

◆◆ペルー共和国◆◆



【言語】

公用語はスペイン語、ケチュア語
(ケチュア語は、一部山岳地帯などで使われている。)

【地理】

南アメリカの北西に位置し、エクアドル、コロンビア、ブラジル、ボリビア、チリと国境を接している。
3つの地形に分けられ、砂漠が広がる沿岸部のコスタ、アンデス山脈が連なる高地のシエラ、アマゾン川流域のセルバとなっている。リマ市が位置するコスタは、砂漠であるものの、フンボルト海流の影響で一年を通して過ごしやすい気候である。ただし、5月～9月の冬の日には、霧が発生し、湿度が非常に高く、どんよりとした天気が続く。

【政治】

大統領を元首とする共和制国家であり、行政権は大統領が行使する。
1980年に軍事政権から民政に移管したが、テロ及び経済問題で国の安定は1990年代のフジモリ※¹ 政権以降となる。



※1・・・第91代大統領 アルベルト・フジモリ

南米初の日系大統領。

本学の協定校でもあるラ・モリーナ国立農業大学で工学修士を取得し、その後学部長も務める。

在職中に起こった日本大使公邸占拠事件については、日本でも数多く報道された。

【文化】

南米最大の帝国を気付いたインカ文明とは、比較的新しい文明で、それ以前にブレインカと呼ばれる数多くの文化が存在していた。

紀元前1500年、アンデス最古の文明と言われるチャビン文明がワラスを中心におこり、紀元元年になると、ナスカの地上絵に代表されるナスカ文化等のブレインカと呼ばれる地方文化が各地におこった。紀元1000年(今から約1000年前)になると、チムー、チャンカイ、イカといった地方文化が栄え、それらを統一し、1250年にインカ帝国が築かれた。その後1533年に、スペインにより征服され、インカ帝国は幕を閉じることとなった。



チャンカイ文化の土偶



マリネラ

このような時代背景から、ペルーの文化はこの2つを根に持ち、その上にアフリカ系住民や近代になって移住してきたアジア系、ヨーロッパ系の諸民族の影響も受けている。

またさらに、地形や気候の違いによりコスタ・シエラ・セルバはそれぞれに異なる文化を持つ。

リマなどのコスタ地域で踊られていた“マリネラ”は、スペイン文化とアフリカ系のリズムが混ざり合い生まれたもので、今ではペルー全土に広まり、国民的舞踊とも言われている。

「コンドルは飛んで行く」に代表されるフォルクローレはアンデス山脈のあるシエラで生まれた音楽である。

◇◆首都リマ◆◇

人口約940万人のペルー最大の都市であり、政治・経済の中心となっている。コスタと呼ばれる海岸砂漠地帯に位置し、42の地区から成り、サンマルコス広場を中心に、カテドラル、大統領府、市庁舎などコロニアル様式の建造物が多く立ち並ぶセントロ地区は、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている旧市街地となっている。

海岸沿いの新市街地、ミラ・フローレス地区には、巨大ショッピングモールや高級ホテルの他、オープンカフェやレストランなども集まり、華やかな賑わいを見せている。

気候は砂漠地帯のため、ほとんど降雨量はなく、年間平均気温は20℃前後。夏の12月～3月の最高気温は30℃を超える日も多いが、冬の7月～9月でも気温が一桁になることは少ない。ただし、この冬の期間はガルダと呼ばれる霧が立ち込めるとんよりとした曇り空が多い。



◇◆ローマ教皇庁立ペルー・カトリカ大学◆◇



カトリカ大学は1917年に Jorge Dintilhac 神父より設立され、その後の業績を称え、ローマ教皇庁より「教皇庁立」の称号が授与された。

ペルー初の私立大学であり、国内でも私立大学の中で1番の名門校として知られている。ラテンアメリカのベスト25の大学のひとつに選ばれ、国際ランキングでもTOP500にランクインした。

413,902㎡（東京ドーム約9個分）という広大なキャンパスの約半部が緑地という、自然豊かなエコキャンパスとなっており、構内でシカやリスに出会えることも多い。

また、マチュピチュへのトレッキングで有名な、インカ帝国時代に造られた幹線道路「インカトレイル」の一部が大学構内にあり、現在もカトリカ大学の教員によって調査が続けられている。

11学部15学科、73のマスタープログラムや16のドクタープログラムを擁し、約24,800名の学生が在籍しており、うち300名が留学生となっている。

人文学部、法学部、情報工学部は、ラテンアメリカでトップレベルを誇り、なかでもアンデス研究者は、世界をリードする存在である。大学内には語学センターがあり、留学生向けのスペイン語研修プログラムの他、英語教育も充実しているため、PUCPに通う学生のほとんどが流暢に英語を話すことができる。

学部ごとにマスコットキャラクターがおり、春には学部対抗のスポーツ大会などが開かれる。

